

(仮訳)

ジョン・ドラマニ・マハマ・ガーナ共和国大統領の公式実務訪問に際しての  
日本国とガーナ共和国の共同声明

1. ガーナ共和国のジョン・ドラマニ・マハマ大統領及び同令夫人は、2016年5月17日から20日まで、日本国政府の招待により日本を公式実務訪問した。
2. 安倍晋三日本国内閣総理大臣とマハマ大統領は、2016年5月18日に東京で二国間の首脳会談を行った。安倍総理大臣は、2013年5月の前回訪問以来、大統領として2度目となるマハマ大統領の訪日を歓迎した。マハマ大統領は、2016年の熊本県熊本地方を震源とする地震の犠牲者に対する弔意を伝達し、震災の影響を受けた人々にお見舞いの言葉を表明した。両首脳は、二国間、多国間双方の文脈において長年育まれてきた友好的で協力的な関係の進展に満足 of 意を表明した。両首脳はまた、二国間関係の更なる強化に向けた決意を確認し、来年の外交関係樹立60周年がそのための素晴らしい機会になることに留意した。
3. 両首脳は、民主主義や法の支配など、普遍的価値の重要性を確認した。両首脳はまた、法の支配に基づく国際システムを支持しつつ、国際社会の平和と安定を確保するため、対話及び協力を強化することを強調した。マハマ大統領は、地域や国際社会の平和、安定及び繁栄を確保するために一層積極的な役割を果たしていくとの日本の意図を歓迎し、国際協調主義に基づく積極的平和主義という日本の政策、及び、同政策の具体的実践として本年3月に施行された平和安全法制を支持した。
4. 安倍総理大臣は、ガーナの長年の安定した民主主義、近年の経済成長及び着実な社会的改善の業績、並びに、アフリカ及び世界のその他地域における平和と安定への積極的な貢献を高く称賛し、ガーナの取組に対する支援を継続するとの決意を表明した。マハマ大統領は、ガーナの社会経済的な成長及び安定に対する日本の長年の支援に謝意を表明した。
5. 両首脳は、日本の実業界にとって西アフリカへの経済的玄関口の一つとみなされるガーナにおいて、日本企業の活動が近年増加していることを歓迎し、二国間経済関係を更に発展させることの両国にとっての利益を認識した。これに関連し、両首脳は、現在継続中の二国間投資協定交渉を加速化させ、可能な限り早期に交渉を妥結する意図を確認した。両首脳はまた、二国間の投資及び経済交流を更に促進させるためには日ガーナ二重課税防止条約の締結が重要であるとの認識を共有し、この観点から、可能な限り早期に協議を開始することを決定した。

6. 両首脳は、第5回アフリカ開発会議(TICADV)の成果を踏まえ、また、次回TICAD首脳会議に向けて協力を一層強化するため、ガーナにおける質の高いインフラの重要性を強調し、これに関する日本の役割を促進するとの意図を表明した。この観点から、マハマ大統領は、安倍総理大臣が本日、ボルタ川に架ける新橋梁の建設である「東部回廊整備計画」について支援する方針を表明したことに関し、心からの謝意を表明した。

7. 両首脳は、ガーナの人間の安全保障や更なる成長の前提条件として、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジに基づき公衆衛生を促進することの重要性を強調した。これに関連し、両首脳は、本日、野口記念医学研究所先端感染症研究センター建設計画に関する交換公文が署名されたことを歓迎した。また、両首脳は、保健分野におけるコミュニティレベルでの努力を支援することの重要性について認識を共有した。この観点から、安倍総理大臣は、最近ガーナにおいて、「コミュニティ・ベース保健計画サービス(CHPS)」政策の改訂版が開始されたことを歓迎し、ガーナのCHPS政策実施に対する支援を継続する意図を表明した。

8. 両首脳は、相互理解のため人的交流が不可欠であるとの考えを共有し、ガーナ独立前の時期にまで遡る交流の重要な役割を認識した。この観点から、両首脳は、本日、人材育成奨学計画に関する交換公文が署名されたことを歓迎した。両首脳は、アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ(ABEイニシアティブ)、青年海外協力隊、国際協力機構(JICA)研修計画、スポーツ・フォー・トゥモロー・プログラムを通じたスポーツ交流等、様々な計画を通じて人的交流を継続するとの意図を表明した。

9. 両首脳は、次回TICAD首脳会議が本年8月に初めてアフリカで開催されることを歓迎し、同会議の成功に向けて協力を強化するとの決意を確認した。安倍総理大臣は、TICADVIはアフリカ開発のアジェンダであるアジェンダ2063を支援するための重要な機会であり、日本として、人間の安全保障の理念の下、質の高いインフラ投資や人材育成、科学技術やイノベーションの促進、官民連携(PPP)や民間セクターの関与の強化等の日本の特色を生かした具体的貢献を示していくとの考えを示した。安倍総理大臣はまた、マハマ大統領によるTICADVIへの貢献を期待している旨表明した。マハマ大統領は、日本の貢献を高く評価し、安倍総理大臣からの招請に応じてTICADVIに参加する旨述べた。

10. 両首脳は、国連安全保障理事会(安保理)が21世紀の国際社会の現実を十分反映していないとの認識を共有し、安保理の実効性、透明性及び代表性を向上させる安保理改革の実現のために協力を飛躍的に強化していくとの決意を表明した。両首脳は、ニューヨークにおける(安保理改革に関する)政府間交渉の最近の進展を踏まえ、意思疎通と協議を進めること等を通じてプロセスの前進を図ることの重要性を強調した。両

首脳は特に、G4(ブラジル、ドイツ、インド及び日本)とアフリカ連合(AU)との間で対話を行うことが必要であるとの認識を共有した。両首脳は、この目的に向かって協調して取り組むよう国連加盟国を慫慂した。両首脳はまた、日本が現在安保理の理事国であることに鑑み、国連が直面する諸課題について両国間の協力を強化する意図を表明した。

11. 安倍総理大臣は、軍縮・不拡散に関する日本の取組に対するガーナの一貫した支持に謝意を表明した。両首脳は、原子力の平和的利用における国際原子力機関(IAEA)の中心的役割を認識し、天野之弥事務局長のリーダーシップの下でのIAEAの継続性の重要性を確認するとともに、IAEAの「平和と開発のための原子力」に向けて協力を継続する意図を共有した。

12. 両首脳は、国連気候変動枠組条約(UNFCCC)締約国が、第21回締約国会議(COP21)においてパリ協定を採択したことを歓迎するとともに、その早期発効と効果的な実施の重要性を強調した。両首脳は、二国間協力を通じたものを含め、気候変動対策において更に協力することを再確認した。

13. 両首脳は、テロ及び暴力的過激主義対策や持続可能な開発のための2030アジェンダの実施等、幅広い地球規模課題への取組において協力を強化するとの意図を共有した。

14. マハマ大統領は、大統領及び一行に対する温かい接遇につき、安倍総理大臣及び日本国政府に謝意を表明した。マハマ大統領はまた、安倍総理大臣に対し、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの成功を祈念する旨述べ、外交ルートを通じて確認する日程での安倍総理大臣のガーナ訪問を招請した。

2016年5月18日

安倍晋三  
日本国内閣総理大臣

ジョン・ドラマニ・マハマ  
ガーナ共和国大統領